

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物等の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

RC

整理番号 _____ 調査日時 _____ 月 _____ 日 午前・午後 _____ 時 調査回数 _____ 回目

整理番号

調査者氏名(都道府県/No) _____ (_____ / _____)

建築物概要

建築物番号

1 建築物名称 _____ 1.1 建築物番号 _____

住宅地図整理番号

2 建築物所在地 _____ 2.1 住宅地図整理番号 _____

3 建築物用途 1.戸建て専用住宅 2.長屋住宅 3.共同住宅 4.併用住宅 5.店舗 6.事務所
7.旅館・ホテル 8.庁舎等公共施設 9.病院・診療所 10.保育所 11.工場
12.倉庫 13.学校 14.体育館 15.劇場、遊戯場等 16.その他(_____)

3

4 構造種別 1.鉄筋コンクリート造 2.プレキャストコンクリート造 3.ブロック造
4.鉄骨鉄筋コンクリート造 5.混合構造(_____)と(_____)

4

5 階数 地上 _____ 階 地下 _____ 階

地上 階

地下 階

6 建築物規模 1階寸法 約 ア _____ m × イ _____ m

ア m

イ m

調査 調査方法：(1.外観調査のみ実施 2.内観調査も併せて実施)

調査方法

1 一見して危険と判断される。(該当する場合は を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1.建築物全体又は一部の崩壊・落階	2.基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3.建築物全体又は一部の著しい傾斜	4.その他(_____)

1

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
判定(1) 損傷度 以上の損傷部材の有無	1.無し	2.あり	

判定(1)

判定	隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1.危険無し	2.不明確	3.危険有り
		地盤破壊による建築物全体の沈下	1. 0.2m以下	2. 0.2m～1.0m
判定(2)	不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/60以下	2. 1/60～1/30	3. 1/30超
	柱の被害〔下記 の調査階(被害最大の階) _____ 階〕(壁構造の場合は柱を壁の長さを読みかえる)			
	損傷度 の柱本数/調査柱本数 損傷度 の柱の総数 _____ 本 調査柱 _____ 本 (調査率 _____ %)	1. 1%以下	2. 1%～10%	3. 10%超
	損傷度 の柱本数/調査柱本数 損傷度 の柱の総数 _____ 本 調査柱 _____ 本 (調査率 _____ %)	1. 10%以下	2. 10%～20%	3. 20%超
判定(2)		1.調査済 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1の場合	3.危険 Cランクが1以上又はBランクが2以上

柱の被害最大の階

判定(2)

危険度の判定 判定(1)と判定(2)のうち大きな方の危険度で判定する	1.調査済み (要内観調査)	2.要注意	3.危険

判定

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
窓枠・窓ガラス	1.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
外装材 湿式の場合	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	3.顕著なひび割れ、剥離
外装材 乾式の場合	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間がみられる	3.顕著な目地ずれ、板破損
看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.落下の危険有り
屋外階段	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.明瞭な傾斜
その他(_____)	1.安全	2.要注意	3.危険
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

判定

総合判定(調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

総合判定

1.調査済(緑) 2.要注意(黄) 3.危険(赤)

コメント(構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。